

# 28pmA-153

植物由来抗腫瘍活性成分の臨床応用のための探索的研究 (4) -ヘンルーダ根について-

中野 大輔<sup>1</sup>, 石塚 賢治<sup>2</sup>, 松田 菜瑠美<sup>1</sup>, 土橋 良太<sup>1</sup>, 大川 雅史<sup>1</sup>, 田村 和夫<sup>2</sup>,  
○金城 順英<sup>1</sup>(<sup>1</sup>福岡大薬,<sup>2</sup>福岡大医)

【目的】我々は植物由来抽出物のライブラリーの中から成人 T 細胞白血病 (Adult T-cell Leukemia/Lymphoma:ATL) 株に対して、選択的な細胞増殖抑制効果や殺細胞効果を持つ抽出物をスクリーニングし、いくつかの有用な植物を見出している。今回スクリーニングで活性を示したヘンルーダについて活性成分の探索研究を行ったので報告する。

【方法】ヘンルーダ (*Ruta graveolens*) の根から抽出により得たメタノールエキスを酢酸エチル/水にて分配後、各層を Silica gel 等のクロマトグラフィーを用いて化合物の単離・精製を行い、得られた化合物の造血器腫瘍細胞腫 (MT-1, MT-2) に対する細胞増殖抑制活性を測定した。

【結果・考察】ヘンルーダ根から単離した化合物の各種 NMR を文献と比較したところ、6 種類のクマリンと 2 種類のアルカロイドが得られ、いずれの化合物も弱いながら腫瘍細胞増殖抑制効果を示した。現在、他の化合物の構造および活性を検討中である。

